場所・面積

高知県高岡郡四万十町　面積：258.63 ha

管理目的

ヤイロチョウが生息できる環境を保全するため、2016年8月、公益社団法人生態系トラスト協会と「ヤイロチョウ保護協定」を締結。
以降、生態系調査のフィールドを提供し、調査利用を主な目的とした歩道敷設の支援、自治体・ステークホルダーとの意見交換、情報発信の場の提供などを実施。



写真提供：公益社団法人生態系トラスト協会

サイト概要

1.3haの照葉樹林以外は、アカマツを主体とし一部尾根部と谷筋にヒノキとスギを配置した人工林。
生態系トラスト協会が所有する「四万十ヤイロチョウの森」の大半は四万十町下道に位置しており、木屋ヶ内山林に接している。

土地利用の変遷

林業経営を目的として所有していたが、ヤイロチョウ保護を機に社内規定に則り全山を環境保全林に設定。積極的な経済行為を行わず、環境保全・生物多様性の保全の観点から、必要な保全管理を行う山林とした。

サイト周辺の環境

高知県高岡郡の四万十川中流部にある支川沿いに位置する。渓流や河畔林においてヤマセミ、カワセミ、アカショウビンなどが生息・繁殖している。川沿いの岩上にはシチョウゲや、日本固有種で四国のみで川沿いの岩上に自生するトサシモツケ等が群生し、自然河岸等にはキシツツジが生育している。

アピールポイント

王子グループは、2003年11月に「生物多様性保全を考慮した施業方針」を策定し、継続的に取り組んでいます。生態系トラスト協会が実施した木屋ヶ内山林の生態系調査結果により、当社の施業・管理下において希少生物の生息域になりうるという事が示されました。
更なる生物多様性保全に資する施業管理方法を深耕するとともに、官民連携など様々なステークホルダーとの協働により、環境保全のみならず林業をはじめ、地域に貢献できればと考えています。

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

1.3haの照葉樹林以外は、アカマツを主体とし一部尾根部と谷筋にヒノキとスギを配置した人工林。

【確認された希少種】

ヤイロチョウ（学名：Pitta nympha、環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB類(EN)）
※生態系トラスト協会による2016年と2021年の調査で、ヤイロチョウの繁殖を確認。



写真の説明： サイト内で確認されたヤイロチョウ
（写真提供：公益社団法人生態系トラスト協会）

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

1.3haの照葉樹林以外は、アカマツを主体とし一部尾根部と谷筋にヒノキとスギを配置した人工林。

【隣接・接続する保護地域等】

生態系トラスト協会が所有する「四万十ヤイロチョウの森（約165ha）」の大半は、四万十町下道に位置する。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

生態系トラスト協会は、約255haの「四国ナショナルトラスト地」を取得、四国のビオトープ（生物生息空間）をネットワークで結ぶことによって生態系保全を目指しており、ヤイロチョウの生息地連結性を高めるとともに、ヤイロチョウの天敵を捕食するクマタカの生息環境を保全。



写真の説明： 木屋ヶ内社有林の概観



写真の説明：当社社有林、生態系トラスト協会の山林地域で見られた動物
（左上から、ニホンイタチ、キュウシュウノウサギ、ホンドタヌキ、
アオバズク、ブッポウソウ、エナガ、アカショウビン、サンコウチョウ、ミサゴ）

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 ・社内規定の「環境保全林設定要領」に則り、木屋ヶ内山林は全域を環境保全林に設定。 ・環境保全林では、積極的な経済行為を行わず、環境保全・生物多様性の保全の観点から、必要な保全管理を実施。 ・保護協定締結以後、木屋ヶ内山林内では林業施業は行っておらず、生態系調査利用を主目的とした生態系トラスト協会の自然観察歩道整備のみへの協力（2019年度、2021年度）を実施。 ・絶滅危惧種ヤイロチョウ生息状況を中心に年に複数回、生態系トラスト協会が実施（状況に応じて、土地所有者、管理責任者が同行）。その結果を土地所有者、管理責任者に報告(１回／年)。	**【モニタリング対象】** ヤイロチョウ **【モニタリング場所】** 高知県高岡郡四万十町 王子ホールディングス株式会社木屋ヶ内社有林 **【モニタリング手法】** 生息状況の確認 **【実施時期及び頻度】** 年に複数回 **【 実　施　体　制 】** 生態系トラスト協会